

地域とつながる人



1・2年生 いもほり



1年生はさつまいも、2年生はつるりしいもの収穫をしました。これまで水かけや観察をしながら、一人ひとつの苗を大切に育ててきました。当日は、畑の先生である今井善明さんからのご指導のもと、歓声をあげながら収穫の喜びを味わいました。

実りの秋



5年生 つや姫大収穫 10/24



5年生みんなで脱穀をしました。元PTA会長の五十嵐正俊さんのご協力により、機械に稲を載せ、籾(もみ)にして袋にためていきました。その後、ライスセンターに運び、武田精一さんより籾摺りをしてもらいました。

稲がもみになり、もみがとれて米の形に変わっていくのにおどろきました。収穫祭で食べるのが楽しみです。(5年翔夢)

読書の秋

11月は「読書月間」です。毎朝の読書、みなみおはなしかご・先生の読み聞かせ、親子読書、他にも様々な企画で読書を推進しています。



1年生 秋さがし 11/2



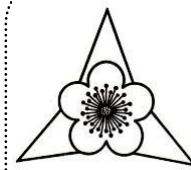
1年生は生活科の学習で朝日少年自然の家に「秋さがし」に出かけました。落ち葉を集めたりどんぐりを拾ったり、自然の中でのびのびと活動しました。そして、学校の畑で育て収穫したさつまいもを焼き芋にして、おいしく食べてきました。

さつまいもの中がほくほくしてがおいしかったです。ねこの形の葉っぱをみつけました。

(1年えりん)

12月の主な予定

1日(木)安全点検・委員会活動(2学期最終) 7日(水)朝会(なわとび発表会) 8日(木)ALT 大掃除 9日(金)みなみおはなしかご・見守りボランティアとの懇話会・大掃除 12日(月)集金口座振替日・大掃除 13日(火)大掃除 14日(水)表彰・音楽朝会・大掃除 16日(金)個人面談①(血沼・西浦) 19日(月)個人面談②(島) 20日(火)個人面談③(高屋) 21日(水)個人面談④(泉町・南新町・曙町・寿町) 22日(木)2学期終業式(給食なし)



《南部小学校通信》

南部っ子

～「当たり前レベルアップ」で 笑顔の花咲く南部小～

発行日 平成28年11月20日
発行所 寒河江市立南部小学校
学校教育目標
=学び確かに 心豊かに 体健やかに=

以唇伝心



コミュニケーションという言葉があります。元々日本にはなかった概念です。ですから、外来語として片仮名で表記されます。なぜ、日本にはコミュニケーションという概念がなかったのでしょうか。

国境が陸続きになっている国同士では、「異」と交流する機会と場が生まれます。コミュニケーションは必然でした。一方、日本は島国です。他の国とは陸でつながっていません。「異」と交流する必要がなかった日本には、コミュニケーションという概念が生まれませんでした。そのため、日本では「以心伝心」「言わぬが花」「目は口程に物を言う」という言葉も生まれ、最近では「空気を読む」という言葉もあり、日本的な慣例として根付いてきました。相手が発する言葉の裏に隠れたものまで推測する日本人は、なんとすごいのでしょう。

しかし、これからの子どもたちはグローバルな社会の中で「異」と関わり合って生きていかななくてはなりません。言葉や文化の違う外国人がどんどん身近になっています。これからの社会は、世界が一緒になってより良くしていく時代です。つまり、世界中の人々とコミュニケーションをとっていく能力が求められているのです。心を以って心に伝えるのではなく、唇を以って心を伝えていく必要があるのです。以唇伝心です。



先月行われた南部小学校の文化祭では、子どもたち一人一人が自分を表現し伝えようと取り組み、笑顔が輝くものになりました。また、先日の朝会では、児童会の元気アップ保健委員会が、「心が元気になる言葉」を集めて発表してくれました。ベスト3は次のようになりました。

第一位:ありがとう 第二位:すごいね 第三位:がんばってね

これらの言葉はすべて人とのかかわりの中で発せられる言葉です。「異」との交流ではありませんが、心が元気になる言葉や毎日のあいさつを心で言うのではなく、唇を動かして言うことは世界共通で「心を元気にしていく」のではないのでしょうか。

(教頭 小林 孝弘)



「南部三心」を決議する
上記記事と関連しますが、児童会保健委員会が、「心が元気になる言葉」のアンケートを実施した結果を受けて、児童会代表委員会では、これからもみんな仲良く笑顔で生活できるようにしていこうと、次の3つの心(言葉)「南部三心」を決議しました。
○「はいっ」という素直な心
○「ありがとう」という感謝の心
○「すみません」という反省の心
「はいっ」は返事であり心を合わせる意志表示であります。「ありがとう」がたくさん聞こえる学校や地域、「すみません」と反省のできる「南部っ子」になるように期待をしているところです。
自分達の生活の向上のため、自分達で決めたことを実行していくことは、特別活動の最大の特色でもあります。児童会という同年生集団・異学年集団のかわりを考えると、言葉はそのツールとして大事な役割を果たしていることは論を待ちませぬ。
【校長 武田幸一】

今年度のキーワード「当たり前レベルアップ」

児童会「10・11月あいさつレベルアップ期間」



「あいさつは明るく元気に自分から」

PTA生活部「10月あいさつ強調月間」

南部小児童会・PTA生活部・子ども育成会であいさつ運動を行いました。児童会では、実行委員が中心となって「あいさつ運動」を展開。朝から元気なあいさつが響き渡っています。10月中の登校時にはPTA生活部・子ども育成会のみなさんが通学路に立って明るいあいさつをかわしてくださいました。学校と地域・家庭が一緒になって取り組むことで、その成果が子どもたちの姿に今後も表れていくようにしていきます。

心豊かに



「いのちをつなぐ人」

4年生 認知症サポーター授業 11/8



寒河江市認知症キャラバンメイトのみなさんからのご協力で、4年生が認知症について真剣に学びました。寸劇によるワークショップでは対応について深く考え、認知症ソングは進んで声を出して歌いました。今後、実際に遭遇し対応していかなければならないことや、家族や身近な人への思いやる気持ちの大切さを学んでいました。

今日学んだことを生かして相手のきもちになってやさしく人に接することが大切だとわかりました。(4年駿叶)

ビオトープ最終 11/5



今年度最後のビオトープ活動が行われました。ビオトープを通じた学習と活動は保護者・地域の皆様のご協力のもと、南部小の自慢と誇りになっています。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

南部小児童会 赤い羽根募金 15309円



ありがとうございました！

学び続ける人

学び確かに・体健やかに

南部小・文化祭 10/29

1年生 ふしぎな がちょう



4年生 届け歌声 響けハート



2年生 みんなのしくしゅりゃんダンス!



5年生 収穫の喜びを表現しよう



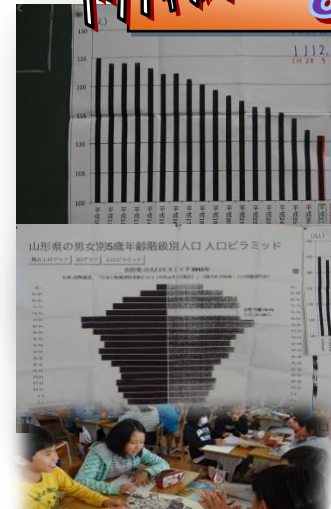
3年生 まほうつかいたちのほうけん 月の石をさがしに



6年生 まぬけ村物語



アイトーク「寒河江市の未来」



6年生が県の人口推移や年齢別人口のグラフから「何がわかる?」という授業を行いました。減り続けている、子どもが少ない、20歳前後に地域を離れる、60歳前後が多いなどの分析から「人口が減らない未来の寒河江市に」という新たなテーマが生まれ、そのためにどうするかを真剣に議論していました。今後は「さがえ未来創成課」の方にも聞いたり、他地区の取り組みなども参考にしたりして、自分達で寒河江市の未来を拓くアイデアを考えようとしています。学習の中に次々と新たな問いが生まれテーマに向かって協働して学ぶ面白い授業です。

主体的・対話～深い学びへ

